

第 13 回川部会 WG（地先モデル 2 回）の進め方

H25. 9. 22

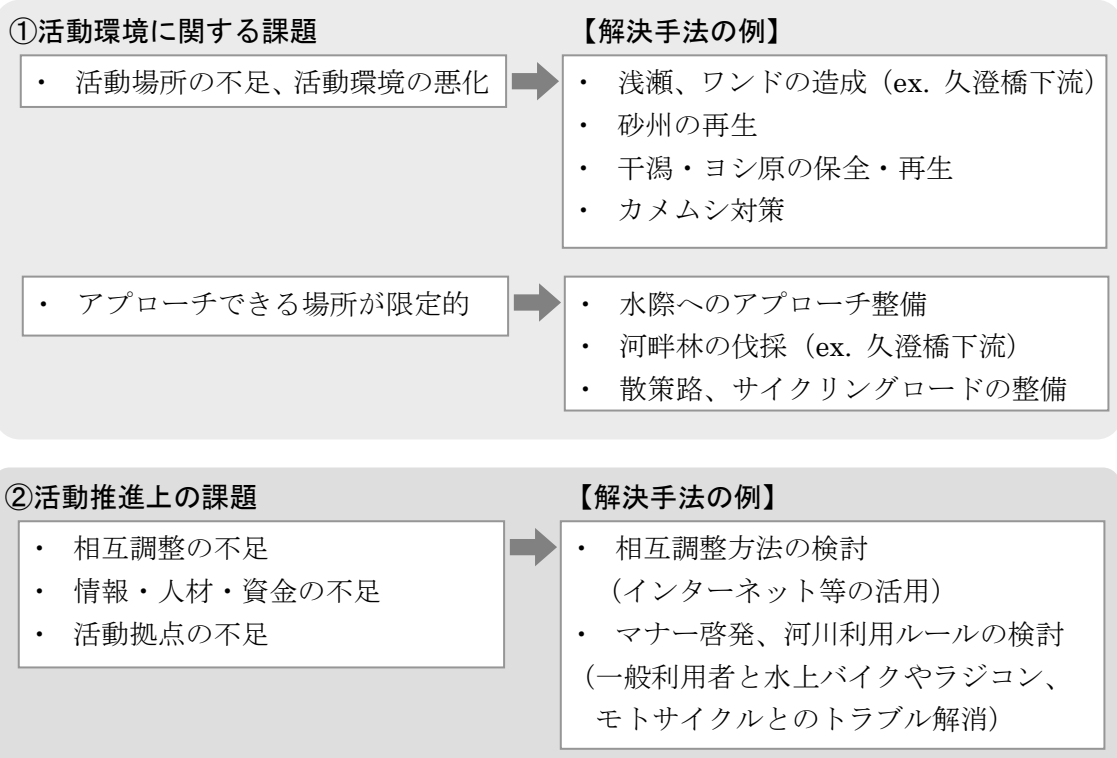
1. 地域部会「川部会 WG（地先モデル）」について

(1) 地先モデルの概要

- ・ 地先モデルでは、主に地域の人々と川との関係を中心に、河川の維持管理活動、河川環境（美化・自然環境）の保全活動、河川空間の利用、啓蒙・文化活動等にかかわる課題を対象とする。

(2) 地先に関わる主な検討テーマ

「活動環境に関する課題」と「活動推進上の課題」の 2 つの視点で課題を整理し、地先モデルの検討テーマとしています。



(3) 昨年度に共有された課題と解決の方向性

昨年度（地先モデル1回）で、共有された課題と解決の方向性は、以下のとおりである。

■地先モデル1回の調査箇所

場所	活動環境に関する課題	活動推進上の課題
美矢井橋下流	○カメムシ対策	○利用ルール（ゴミ捨て等）
乙川		○活動上の課題等（菅生川を美しくする会）
日名橋下流	○サイクリングロードの整備	○活動上の課題等（水と緑を守る会岡崎）
家下川合流点付近	○サイクリングロードの整備	

■課題と解決の方向性

1) 活動環境に関する課題

- 美矢井橋下流のカメムシ対策現場では、地域性のある生物相に対応するため、流域圏における**各種専門家のプラットフォームが必要**であることが認識された。（ex.西三河野生生物研究会）

→ **解決の方向性：(仮) 専門家リストを作成、運用**

- 散策路やサイクリングロードは、地元要望によって異なる整備の考え方を持つ場合がある。堤防⇄高水敷という横断的な連続性（アクセス）だけでなく、**縦断的な連続性を確保する必要**があるが、そのためには、**関係機関の相互調整の場が必要**である。

→ **解決の方向性：関係機関調整（地元自治体間など）の場の提供**

2) 活動推進上の課題

- 美矢井橋下流では、不法投棄の対策（看板設置、夜間巡視、監視カメラなど）を実施しながらも、課題解決に至っていない。

→ **解決の方向性：利用ルールの作成・啓発など、今後検討が必要**

（人が川に意識を向けることも方向性の一つ）

- 活動団体のマンパワーで、どの程度の活動が可能か。**人的資源の確保が必要**である。

→ **解決の方向性：潜在的なマンパワーの掘り起こしの検討（先行事例：矢作川森林塾の活動に豊田東高校が参画）**

- 乙川では、菅生川を美しくする会が河川美化活動を継続しているが、**資金は毎年ぎりぎり**の中で活動を実施している。

→ **解決の方向性：活動資金獲得方法などについてヒアリングを実施するなど、今後検討が必要**

3) 地先モデル運営上の課題

- 共有された地先の課題は限定的であり、既存資料からの抽出だけでは十分な掘り起こしができていないと考えられ、**地先の課題の全体像が掴めていない状況**である。

→ **解決の方向性：活動団体・関係団体等へヒアリングを実施し、潜在的な地先の課題・ニーズの掘り起こし**

(4) 運営方針（案）

第2回全体会議で地先モデルについて示された運営方針（案）は、以下のとおりです。

- 今年度の現地調査を元に、まずは意見交換の場を設け、各課題の情報共有と解決の方向性を確認する。とりわけ、「河川空間利用に関する調整の場の提供」と「(仮) 専門家リストの作成」を優先的に検討する。
- 活動環境に関する課題は、他WG開催中にも情報共有を継続して情報共有と課題整理に努め、1日現地調査を実施し、各課題の情報共有と解決の方向性を検討する。
- 地先の活動団体等をリスト化し、情報共有の場を提供する。(懇談会への参画を期待)

(5) 地先モデルの開催予定

以上を踏まえ、川部会WG（地先モデル）は、本日を含め、今年度に2回の実施を予定しています。

【スケジュール（案）】

第2回 WG：現地調査（活動の現状と課題の共有）

9月22日（本日）

第3回 WG：地先モデルの課題解決策の検討

12月（予定）

2. 第13回WG（地先モデル2回）について

（1）WGの概要

本日のWGは、地先モデルについて今年度の活動計画に基づき、矢作川本川（豊田市内）において、1日バスツアーにより現地調査を実施し、活動団体や管理者が抱える課題や活動内容について情報共有を進めます。

- | | |
|----------|--|
| 1) 開催日時 | : 平成25年9月22日(日) 10:00~16:00 |
| 2) 調査場所 | : 矢作川本川（豊田市内）
(集合場所 : 新豊田駅西口ロータリー内) |
| 3) 参加対象者 | : 市民・関係団体・学識者・行政 |

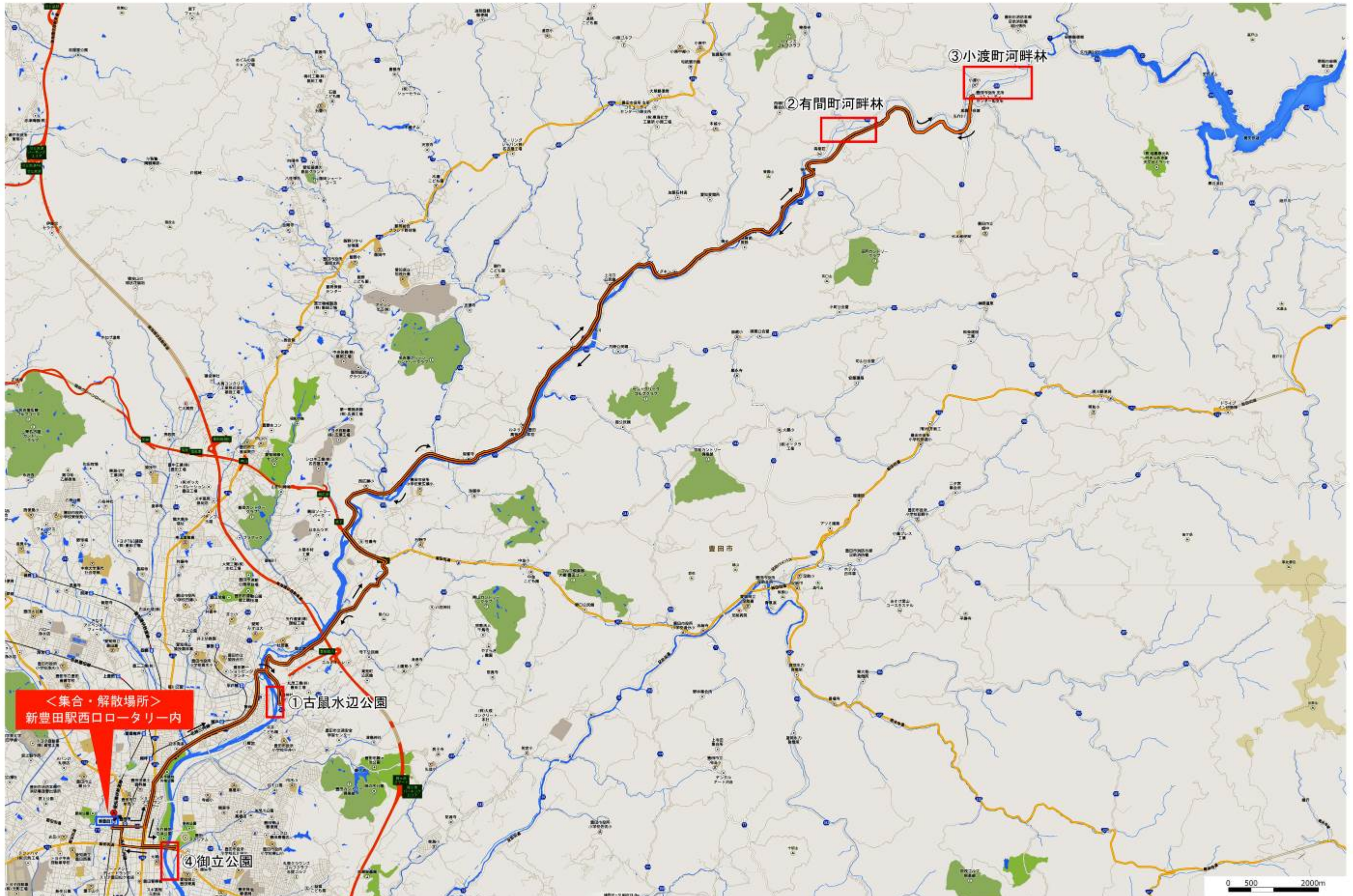
（2）現地調査の概要

現地調査は、下表の4か所について実施し、各地点で活動団体の方からお話を伺い、活動内容や活動上の課題について情報共有しながら、課題解決策について意見交換を行います。

表 現地調査箇所

No.	調査箇所	活動団体
①	古鼠水辺公園	古鼠水辺公園愛護会
②	有間町河畔林	有間竹林愛護会
③	小渡町河畔林	小渡セイゴ水辺愛護会
④	御立公園	矢作川森林塾

ルート全体図



調査箇所①：古鼠水辺公園



調査箇所②：有間町河畔林



調査箇所③：小渡町河畔林



調査箇所④：御立公園



3. 次回WGの活動について

(1) 第14回WG(本川モデル7回)

前回WGでは、以下の活動日時に設定されています。活動日時、活動内容の方向性について、調整してください。(※活動内容は、テーマ案1をメインテーマにしたいと考えています。)

活動日時 : 2013年10月18日午後

活動内容 : 本川モデルの現地調査+意見交換

テーマ案① 瀬・淵について(笹川合流点付近の瀬淵の現地調査+意見交換)

—懇談会として目指す瀬・淵のあり方について意見交換

テーマ案② 加茂川の段差解消について(意見交換)

【参考：第11回WG(本川モデル6回)の概要】

7月12日に開催された第11回川部会WGでは、瀬淵やワンド、砂州、支川合流点の現状を確認し、情報共有を行いました。また、「瀬・淵について」「支川合流点について」「次回以降の活動について」「今年度発注工事について」などの各課題と解決策について話し合いました。

- 瀬淵やワンドなど、横断的な変化の形成には、低水路幅の広がり重要であり、生物の生息環境にとって、水深が確保されている必要があることを確認した。
- WGメンバーの活動として、加茂川の段差改善の検討を行うことを確認し、大見川については、豊田市の検討状況を確認していくこととした。
- 国交省の今年度発注工事のうち、樹木伐採と高水敷の掘削方法について、個別にWGメンバーから意見をいただくこととした。



現地調査の様子



豊田大橋下流の瀬の状況



加茂川水門下の段差の状況